

浪商高等学校の改革 I類 II類の成功に向けて

学校教育目標「学習(授業)と部活動の充実」を達成することが成功への早道！

大阪体育大学浪商高等学校

校長 大木 徳史

参考基礎資料:2010年度の保護者等の学校診断分析結果、進路指導革新セミナー研修、進路実績、府立高校の授業改善実施策、その他本校の49ページにわたる資料を基に改革策を記した。

○進学実績だけを追求すると失敗する。花火を打ち挙げても瞬間で終わるといこと。

○多くの学校でつくる新たなコースは、1年生の生徒確保を主目的としてスタートしているので、弱い。真の学校改革は全生徒の学力の伸長を確実に実践することによって、これが未来永劫安泰した学校運営を可能にする。

また、泉南・和歌山に進学を目指す学校の地域のニーズがある。

◎「真の学力の向上」(学習意欲の向上)を目指し「進学実績」はその結果である。

⇒生徒を相対的に伸ばすことを示せない学校は存続できない。

○学校全体の共通の目標を設定

○実績向上の理由の共有化 本質的な生徒の学力の伸長を目指す

○教員相互の競争意識 授業における

○トップダウンとボトムアップ 両面が必要

○I類II類と他アリートコース等も生徒の学力伸長を中心とした考え方

○リーダー的教員の存在が必要

○進路だけでなく各分掌の進学実績(学習意欲の向上を)も目指した目標設定

【具体的な方策】

a. 教員の学習(授業)への意識向上

・管理職による授業観察

教員の教授、生徒の状態度他観察することにより授業改善につなげていく。

・研究授業の実施

・教科別授業改善の協議

・生徒、教員双方向の授業アンケート

2学期中に全教員、非常勤講師含む が担当全クラス、全教科科目にて職務として実施し自分の授業改善に努める。本質的に各先生の授業改善を目的しますので、全体の集計はしません、各自で分析しながら改善に努めること。また、生徒がふざけて記入する心配をするが、生徒はきちんと記入する。

・実践的シラバスの作成

b. 授業力アップ

- ・代ゼミ等の活用
- ・進学校へ授業見学

〇〇進学校に参観した感想文を記入、公立高校も必死。

さらに、文化祭、体育祭等も他校視察に行つて比較し、より質の高い行事とする必要がある。

- ・個人、教科授業研修への参加
- ・全教科での授業研修の実施
- ・教科/進路指導に長けた人材登用

英数国のセンター受験指導に熟知した教員を募集、赴任については、本校の場所的なこと、また、本校の進学実績からして難易度が高いのが現状、人材情報提供を依頼

c. 進学実績へ向けた体制づくりとしての部活のあり方

- ・強化クラブと一般クラブのすみ分け
- ・実技主指導者と顧問の区別化
- ・複数顧問制の見直し
- ・合宿、遠征等の規定の作成
- ・実技主指導者の超過勤務の削減方策と教科指導体制
- ・進学クラブの制度化と活性化

d. 授業時間の確保（基本は1単位28実時間）

真の学力伸長には必要十分条件、また、保護者からの信頼を得るために量的な確保

- ・年間行事の見直し(授業時間確保を優先)
- ・授業に基礎基本ベル着の徹底 初期の段階での授業受ける態度の育成、生活指導も同じ。4月に当初の教育指導計画を職員会議へ提出済み
全国で優れた学校は、初期動作が非常にうまく行っている
とベネッセの調査結果より
- ・eトレーニングの充実
- ・組織化された補講の実施

e. 入り口と出口の連動

- ・入試対策室と進路指導部の連携と融合（組織と人事両面より）
- ・入学者に関するデータ処理 入学者に対して共通基礎テスト
- ・卒業生に対するデータ処理
- ・生徒の伸長に関するデータ処理と公表 基礎テストとセンター試験、進学実績比較

f. 当面の課題

- ・ I / II 類の広報、周知、生徒獲得
- ・ 3 年間の実績づくり
- ・ 有名大学指定校枠の拡大
- ・ 塾、中学校への勧誘と個別勧誘

g. 創立 100 周年に向けた将来的な目標

- ・ I 類 1 クラス 40 名 II 類 2 クラス 80 名 ・ 国公立、有名私学へ多くの進学者
- ・ 体育科の設置 恒例的に全国大会常時出場と全国優勝
- ・ 学習、スポーツ優秀生徒と教員の確保

h. その他

- ・ 自習室の改善整備 ・ 勉強合宿の実施(浪商クラブ他)
- ・ カリキュラム等の点検/見直し・朝学の実施
- ・ 外部講師による定期的授業の試行
- ・ スポーツ/学習 成績優秀者に対する入学後の奨学金制度の構築

※以上のことを達成するためには、生徒の内面の成長も必要十分条件

- ①自立心の育成 自分の意志・力で考え行動できる
- ②自律心の育成 自分の意志で自分自身の行動を律することができる(規範意識)
- ③自尊心を高める自分を大切に、自分を好きになれる心
- ④社会貢献活動 他者を幸福にすることで喜びを感じられる

生徒指導や担任業務がこう言った心の醸成の中心的役割を担い、それが学習への意欲や向上心を生む原動力となる。

外部講師を招いて人生達人講座などの開催も必要。

自虐的精神よりも自尊心を高め、自分を大切に、他人を大切にする心の醸成が自己の向上心や大きな夢の実現につながる

※ 浪商高校といえども、生徒たちの進学先を決定するのは、生徒自身の学力が中心になる。

H. 22 年度実績から 純粋にスポーツで 14% しか進学していない。

普通の授業の大切さを、先ず、我々自身の意識改革と同時に生徒自身にも意識改革を求めていくことが、揺るぎのない浪商を構築していくことになる。生徒の進学保障をすることは私たちの使命である。

最後に、例年のようですが、一般入試があまりにも少なすぎる。生徒への指導で一般入試まで頑張っていく、持続力、向上心やチャレンジ精神などの内に秘める心の醸成も必要である。